

青少年消防 オリンピック

青少年消防オリンピックについて

諸外国にも日本の少年消防クラブと同様な組織があり、活発に活動しています。ヨーロッパではCTIFというヨーロッパ各国を中心に組織する国際消防組織が2年に1回、ヨーロッパ中の少年消防クラブメンバーが集まって消防の実践的な活動を折り込んだゲームをする消防オリンピックというような大会を開催しています。そこでは国際的な交流が行われ、お互いに大きな刺激を与えています。

この大会は、平成29年には21回目を数え、ヨーロッパの20数か国が参加し、1チーム10名で、参加対象の年齢は12歳から16歳までであり、各国2チーム以内の参加となっています。

大会では、消防の実技を取り入れた障害物競争や400メートルリレーの他、参加各国の文化・歴史等を発表する国際交流イベント等が行われています。

日本消防協会では、この大会に日本からも派遣することで、我が国少年消防クラブメンバーが、ヨーロッパ各国青少年と競い、交流を深めることで、我が国少年消防クラブの一層の発展に役立つものと考え、平成21年7月、日本から初めて、札幌、東京、徳島、長崎県壱岐島の少年消防クラブメンバー、合わせて20人をチェコのオストラバで開催された17回大会に、ゲスト参加ということで派遣しました。

その後二回目となる平成27年7月のポーランドのオポーレでの第20回大会には、埼玉県三郷市、東京都日野市、徳島県鳴門市及び沖縄県伊平屋村の4つの少年消防クラブを大会の正式メンバーとして派遣しました。

それぞれの大会で我が国少年消防クラブメンバーが、ヨーロッパ各国青少年と競い合い、素晴らしい交流を深めることができました。それは同時に、これからの日本の少年消防クラブ、消防の益々の発展につながってくるものと考えています。

競技の内容は次のとおりです。



ヨーロッパ青少年消防オリンピック競技概要

[共通事項]

- ◎ 1 チーム構成は、リーダー 1 人、隊員 8 人、予備隊員 1 人の 10 人
- ◎ 競技者の年齢は、12 歳から 16 歳
- ◎ 命令と指令はそれぞれの国の言語で実施
- ◎ 競技は、障害物消防競技とスポーツ競技 400 m リレーの 2 種目で両方の総得点で順位を決定
- ◎ ① 服装：それぞれの国の活動服 ② 手袋、ベルト：全員同柄
③ シューズ：全員同じ色（スパイク及びびょう付きは不可）。

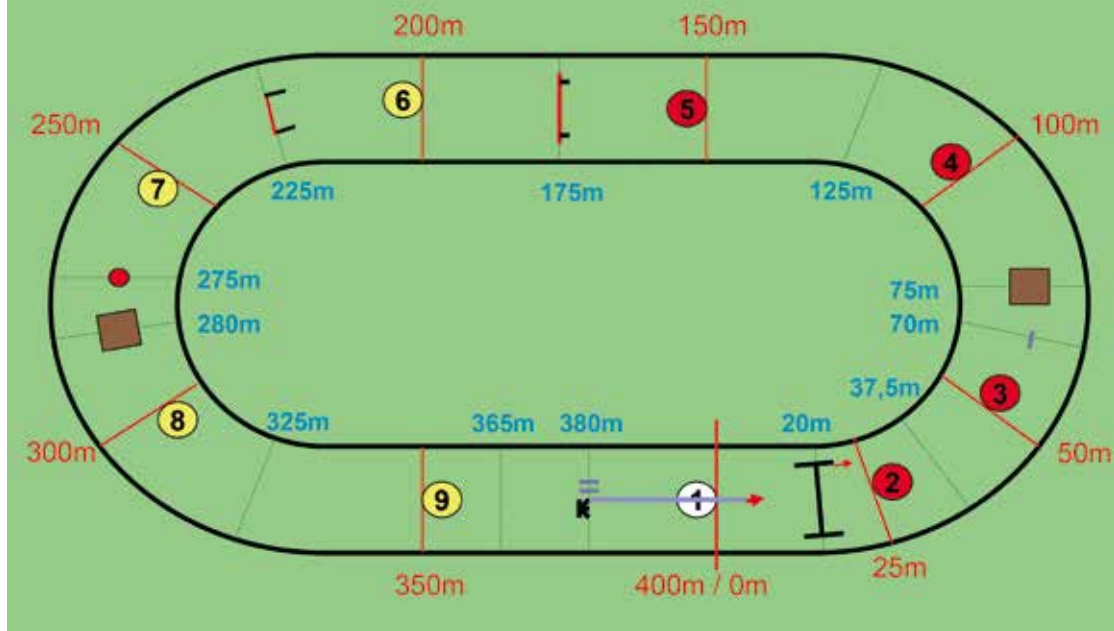
[スポーツ競技 400 m リレー]

- ◎ 全長 400 m のトラックで、45 ミリの筒先のバトンを使い、9 つのセクションで実施。
 - セクション 1：高さ 2 m、幅 1.2 m、水平バー 4 本の登り壁。
 - セクション 2：障害なし。
 - セクション 3：45 ミリのホースを持って走る。
 - セクション 4：障害なし。
 - セクション 5：高さ 80 センチのバーをくぐる。
 - セクション 6：高さ 60 センチのハードルを越える。
 - セクション 7：重さ 6 キロの消火器を持って走る。
 - セクション 8：障害なし。
 - セクション 9：45 ミリの 2 本ホースをつなぐコース。
- ◎ 競技は 2 つの隣接したレーンで実施、メンバー 9 名がいずれかのセクションを担当。
- ◎ 各チームに平均年齢に応じ基準タイムと 100 点のポイントが割り当て。
(12 歳 80 秒、13 歳 77 秒、14 歳 74 秒、15 歳 71 秒、16 歳 68 秒)
- ◎ 基準タイムを 1 秒下回る毎に 1 ポイント付与、上回る毎に 1 ポイント減、また障害物不通過等によるペナルティあり。

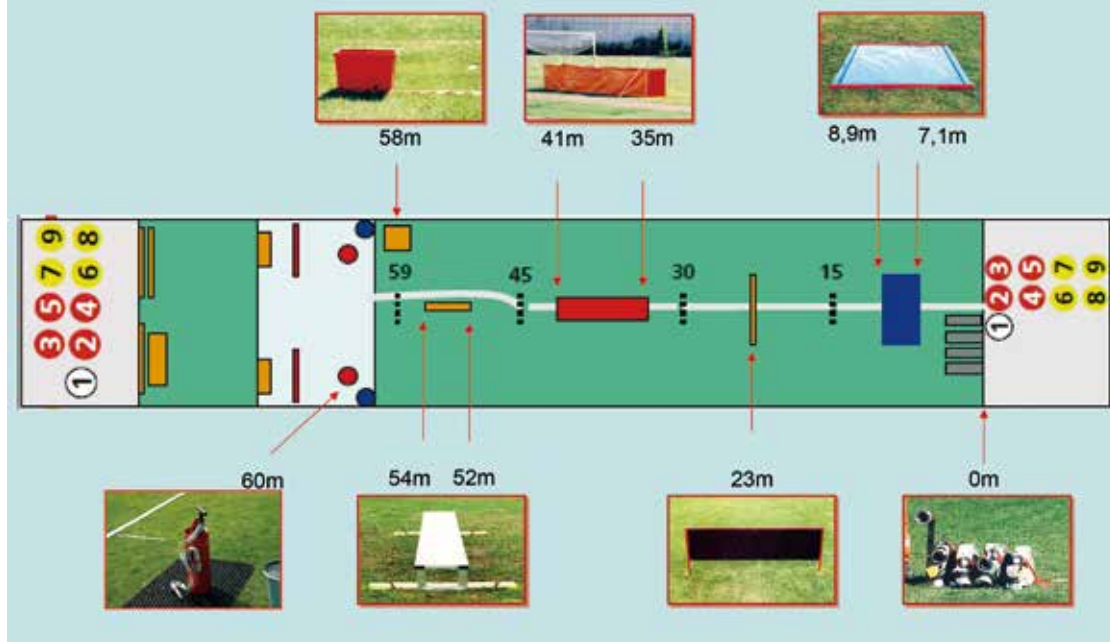
[障害物消防競技]

- ◎ 長さ 75 m のトラックで実施
 - セクション 1：60 m 標識までに 4 つの障害物
(① 構：幅 1.8 m、長さ 2 m ② 柵：7 m、幅 2 m くり抜け
③ トンネル：長さ 6 m、幅 0.6 m、高さ 0.8 m
④ 平均台：長さ 2 m、高さ 0.35 m、幅 0.2 m)
 - セクション 2：手動式消火ポンプ (10 ℓ) 2 台を用い、3 m 二重巻き・15 ミリのホースによる操法競技
 - セクション 3：ロープ結策 (巻き結び、こま結び、半結び、ねじ結び)
- ◎ 競技測定はスタートポイントとして 100 点が与えられ、ゴールまでの秒数、ペナルティーが差し引かれる形で実施。

400mリレー



障害物競技全体図



第20回ヨーロッパ青少年消防オリンピックに出場

少年消防クラブの育成支援は、将来の消防防災を担う人づくりとしても重要です。そこで、平成27年7月、CTIF（ヨーロッパ各国を中心とする国際消防救助組織：日本も参加）が、ポーランドで開催の青少年消防オリンピックに日本からも少年消防クラブメンバーを派遣しました。

日本選手団は、我が国の4つの少年消防クラブメンバー20人、指導者4人及び当協会職員6人の総勢30人の参加でした。

7月19日（日）に成田空港を出発し、開会式が行われる20日（月）に全員が揃ってオポーレ大学の宿舎に入ることができました。

このオリンピック大会は、各国対抗の消防競技（消防障害物競技と400m障害リレー）と各国参加の交流イベント（日本ブースの展示やお国自慢大会、ゲームオリンピック）などです。20日（月）夕方に開催された開会式には、23か国の少年消防クラブが参列し、参加した少年消防クラブメンバーだけでも600人を超え、壮観な雰囲気の中、大会主催者挨拶として登壇したエリクソンCTIF総裁から特に日本チームに対して歓迎の言葉をいただき、感激しました。

この日の夕方から23か国による伝統文化の展示会が2日間の日程で開催されました。日本ブースでは「鶴」や「兜」などの「折り紙」や「うちわ」の配布を行いました。これが大人気になり大勢の方々が「コンニチハ、ニッポン」と片言の日本語を話しながら押し寄せて大盛況でした。最初は尻込みしていた日本の少年消防クラブメンバーも、すぐに溶け込んで諸外国のメンバーと一緒に写真を撮ったり、お互いに記念品を交換したりして交流を深めました。

23日（木）の本大会を控えて、翌21日から本格的な消防競技の練習を重ねました。消防競技のひとつである400m障害リレーでは、2mの壁越えがあり、バトンは筒先、消防ホースや消火器を持って走る区間があるなど消防の動作を取り入れた競技ですが、練習といえども審判団が付いており、本番さながらの練習でした。日本チームにとって、初めての経験であったことから、CTIFの審判団から、練習終了後に日本チームにだけ特別にご指導をいただきました。感謝とお礼を申し上げた時「そんな心配はいらない。当然のことだ」と言われた時、国は違っていても消防人のハートの熱さは日本の消防人と同じであることを全員で痛感し感激しました。

23日（木）の本大会当日、当協会の秋本敏文会長を応援団長とする応援団25人が、はるばる日本から応援に駆け付けてくれて、出場を控え緊張する日本チームメンバーに激励の言葉をいただきました。不慣れなヨーロッパ仕様の消防資機材が使われる中、日本チームは大健闘し、大会会場の観客から驚きの声があがりました。

24日（金）は参加各国が歌や踊りを披露する「お国自慢大会」が開催され、日本チームは

「阿波踊り」を披露しましたが、沢山の地域住民や各国の参加者から称賛の嵐を浴びました。

大会期間中、一つのことを3か国語で説明を受けるといった環境下において、日本の少年消防クラブメンバーは本当に頑張ってくれました。

少年消防クラブメンバー一人ひとりの人生において、決して忘れることのできない大きな思い出になったと思います。そして、それは同時に、これからの日本の少年消防クラブ、消防の益々の発展につながってくるものと思います。

○日本から参加した少年消防クラブ

- ・埼玉県三郷市 三郷市少年消防クラブ
- ・東京都日野市 日野消防少年団
- ・徳島県鳴門市 うずしお少年少女消防クラブ
- ・沖縄県伊平屋村 伊平屋村少年消防クラブ

○日本チームの総合成績

参加 23 か国、45 チーム中

- ・ J A P A N 1 : 26 位
- ・ J A P A N 2 : 32 位

(注) 日本チームの活躍は日本消防協会ホームページに掲載しています。

○上位入賞チーム

- 1 位 : ポーランド
- 2 位 : オーストリア
- 3 位 : イタリア





ポーランドの歓迎の様子



会場観覧席の様子



日本チームへの激励



消防障害物競技の様子



消防障害物競技の様子



400 m障害リレー競技の様子



応援の様子



閉会後の交流



閉会式後の記念撮影



地元紙で日本チームの紹介



お国自慢大会で阿波踊りを披露